

# 子どもを中心とした支援のための官民連携によるインクルーシブ教育推進プロジェクト



株式会社LITALICO 執行役員  
LITALICO研究所 所長

野口 晃菜 氏

## 1 共同プロジェクトの背景

現在、学校教育においては障害のある児童生徒を含む多様な児童生徒がいることを前提とした上で、一人一人に応じた学びを得ることができるインクルーシブ教育システムの構築に向けた学校経営・学級経営・授業づくりをすることが望まれています。インクルーシブ教育を推進していく上での難しさとして、小・中学校において障害のある児童生徒の多様なニーズに応えることの難しさがあります。現に、特別支援学校の在籍者数は年々増加傾向にあり、今後は理念を掲げるのみでなく、小・中学校における多様性に応じた実践とその方法の蓄積が必要とされています。LITALICOジュニアには現在約8,000名の発達障害のある子供をはじめとした多様なニーズのある子供たちが通所しており、これまでこれらのニーズに応えるためのプログラムや研修の開発と実践を積み重ねてきました。一方、これらのサービスを提供できるのはごく一部であり、また、子供がLITALICOジュニアに通所できるのは週に1回程度であることから、日々過ごしている学校や幼稚園との連携は必須と考えています。

学校教育だからこそできること、そして民間企業だからこそできることを組み合わせたら、より良い実践ができると考え、今年度から戸田市教育委員会との共同プロジェクトを開始しました。平成31年2月現在、実施中のプロジェクトの結果については分析中であることから、現在の取組の概要を以下に紹介します。

## 2 共同プロジェクトの概要

### (1) 訪問支援による個別的支援とユニバーサルな支援の効果検証

LITALICOジュニアは児童福祉法に基づく児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業の他に、保育所、幼稚園、学校へ訪問し対象児を支援する保育所等訪問支援事業を運営しています。戸田市では現在3校の小学校において訪問支援を実施しています。訪問支援では、まず保護者のニーズをヒアリングし、担任の先生と対象児童について困難を感じている場面や行動を定義し、先生に記録をしていただきます(図1参照)。記録結果から、行動が起こる状況・頻度・強度などを分析し、必要な支援の手立てを担任の先生と共に考え実施していきます。記録を継続的にとることにより、訪問支援員と一緒に計画した支援の手立てが有効だったかどうかを評価し、有効でない場合は手立てを変え、目標としていた行動が増えた場合は、別の困難場面・行動へと計画を変更していきます。合わせて、随時保護者に記録結果や支援の状況を報告します。子供への支援の手立てを考える時に、これまでの経験値の手立てを実施しがちですが、このように記録に基づいて支援の手立てを決定していくことにより、根拠のある支援をすることができます。また、個別的な支援のみでなく、ユニバーサルな支援を実施することで、対象の児童以外の多様な児童にとっても学びやすい授業や過ごしやすい学級につながります。

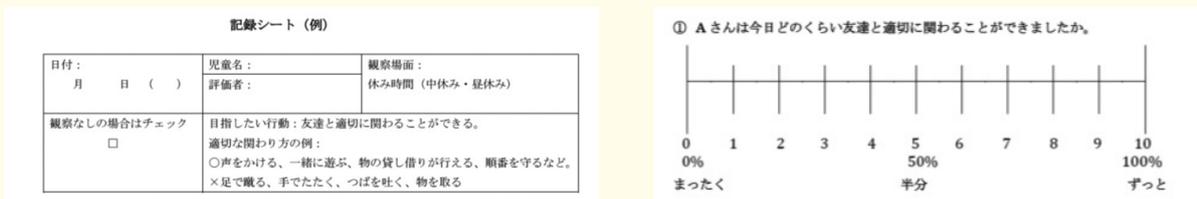


図1 記録シート(例)

### (2) 教師によるペアレントトレーニングプログラムの実施と効果検証

LITALICOでは保護者の子育てにおける日々の困りごとの解消を目的とし、ペアレントトレーニングの実施をしています。保護者が子供とのかかわり方を学ぶペアレントトレーニングは障害のある子供の保護者のみでなく、一般の保護者へと広がりを見せています。戸田市では、教師の保護者支援の自己効力感の向上、保護者の子育てストレスの軽減、そして学校と保護者がより良いチームとして子供を中心とした支援を実施していくことを目的とし、教師がファシリテーターとなり、子育てに困っている保護者を対象に7校の小学校にてLITALICOのペアレントトレーニング短縮版の「子育て学習会」を実施しています。子供へのほめ方を学ぶ「ほめ上手」、環境調整の仕方を学ぶ「整え上手」、伝え方を学ぶ「伝え上手」の3回のプログラムです。参加保護者数は50名を超え、参加保護者からは「叱らなくてもよくなって、自分が楽になった」「一緒に参加して知り合った保護者から良いアイデアをもらった」、参加教師からは「面談の時にも保護者にコツを伝えられるようになった」などの声が上がっています。

### (3) 学校版個別の指導計画作成システムの開発と導入に関する研究

新学習指導要領では、通級・特別支援学級の児童生徒について、個別の教育支援計画及び指導計画を作成することが義務付けられました。

一方、これらの計画の作成については教師が負担感を感じる事が報告されています。

LITALICOにおいても個別の支援計画を作成しますが、計画の質が支援員の力量によりまばらになってしまうことが課題でした。そこで、LITALICOでは新任の支援員であっても質の高い計画を作成するためのシステムを開発しました。

学校においても類似するシステムを開発・導入することが、教師の負担感の軽減と計画の質向上につながると考え、3つ目の研究として、学校版個別の指導計画作成システムの開発に向けた研究を実施しています。現段階では実態把握のためのアンケートとヒアリングの実施が終了し、今後、学校で活用できるシステムのための要件を定義し、開発を進める予定です。

### 3 おわりに

障害のある子供を含むすべての子供の学びを保障することはとても難しいことです。これまで日本中の学校に訪問する中で、排除されている子供の姿を見ることも少なくはありませんでした。この1年間、戸田市の先生方と協働する中で、置いてけぼりになりがちな子供一人一人のことを考え、できない理由ではなくできる方法を考えてくださる姿にとっても心強い気持ちになりました。今後も一緒に子供を中心とした支援を推進していけると嬉しいです。

## □戸田型PBL (Project-based Learning) について

### ・戸田型PBLとは

これからの変化の激しい時代を生き抜くためには、課題解決能力や想像力を通じて、社会に価値を生み出す力が必要です。また、そうした力を発揮する原動力となる社会への貢献意欲や探究心も欠かせません。PBLはこうした資質・能力を育てることを目的に、子供たちが主体的に、仲間と協力しながらプロジェクトや課題解決に取り組む形態であり、主体的・対話的で深い学びの授業改善を追求した方法の1つです。

戸田市では今後、産官学民との連携のもと、戸田型PBLの開発に向けて研究を進めていきます。

### ・これまでの取組

平成30年8月22日(水)、教育センター研究員全体研修会において、FutureEdu Tokyo共同創設者の竹村詠美様を講師にお迎えし、アメリカにおけるPBLの先進校をとりあげたドキュメンタリー映画である「Most Likely To Succeed」を鑑賞後、AIが生活に浸透していく未来社会に生きる子供たちにとって必要な教育とはどのようなものか、各校の管理職、教員のほか、教育委員、指導主事を含め100名を超える人数で熱い熟議を行いました。

平成31年2月8日(金)のセンター研究員発表会では、一般社団法人 こたえのない学校 代表理事の藤原さと様を講師にお迎えし、PBLの考え方やPBLをとおして子供たちに身に付く力等、具体的な事例を交えて御講義をいただきました。

さらに、次頁の例のとおり、校長・指導主事・教員による国内外の先進的な取組の視察や、PBL勉強会、国内研修への参加などを行い、戸田型PBLの構想を検討してきました。

